

六日市中教諭ランナー救命

AED操作生徒学ぶ

吉賀



花田隆文教諭

吉賀町の六日市中3年生と教員計21人が28日、益田広域消防署六日市分遣所で自動体外式除細動器(AED)を使った救急救命法を学んだ。町内の全4中が対象で、2013年度から続く講座。昨年、受講した同中の花田隆文教諭(34)は、ことし

4月のよしか・夢・花は「助かって良かった。マラソンでランナーの命を救った。」

生徒と一緒にボラン

ティアで給水所にいた

花田教諭。走り抜けた

60代男性が急に倒れ、

意識がないことを確認

すると、タオルの用意

など生徒にも手伝って

もらい、AEDが届く

まで胸骨圧迫などを続

けた。男性は搬送後、

一命を取り留めた。

本人から感謝の手紙

を受け取った花田教諭

AEDの使い方を練習する生徒たち



「は、助かって良かった。対処できたのは講座で救命法を習っていたからこそ」と話す。

この日は、救急救命士ら8人から人工呼吸などを教わった。買い物中の男性が倒れたなどの想定で、AEDのパッドをマネキンに貼るなどして操作方法を習得した。

講座は六日市病院の医師や看護師らでつくるNPO法人六日市ECC協会が開いた。受講者には国際認定証を渡し、ことしはこの日までに全7回を終え、計約110人が受講した。(江川裕介)